

工部省お雇英医パーセル（一八四一—七七）とその業績

蒲原 宏

パーセル (Theobald Andrew Purcell 一八四一—一八七七) について小報(臨床科学二十二巻四号五二〇—二二頁一九六一年)を行ったがその後の調査について報告する。

(1) 一八四一年生れ、アイルランド・ダブリン市ハーコート(Harcourt 71)、月日不詳

(2) 一八六二年ダブリン・クーンビ病院(Coombe Hosp.) 医学校を首席で卒業、ついでステイブソン病院(Steeven's Hosp.)

で研修、一八六四年八月二日英国医師会医師登録、一八六四年 Lic. R. Coll. Phys. Edinburg, Lic. R. Coll. Surg. Edinburg

を認め同年 Assistant Surgeon of Army となす。

(3) 駐日英国陸軍第十連隊第一大隊附軍医在勤二年後退官、ついで一八七一年四月より工部省外国人雇治療のため雇備。一八七二年六月一七日より五年間工部省鉄道工事雇備

英国人治療に従事。一八七七年八月一日満期。初期月給四

〇〇ドル、明治九年七月より月給二五〇円、明治十年より三五〇円。東京府麻布鳥居坂九番地本山漸方に止宿。夫人とともにあった。エドウィン・ホイラー(Edwin Wheeler 一八

四一—一九二三)の上司であった。三六歳で死亡している。

(4) 一八七七年(明治十年)八月二日死亡(大政類典一、二、外国人雇入取扱参考書第二巻、資料御雇外国人)となっているが、八月二〇日(墓碑銘・Medical Directory 1878 p. 1257)が

正しいようである。死亡時は Surgeon Major Army であった。

(5) 横浜市山手外国人墓地二〇区六三に埋葬された。墓碑には次のように刻まれているが、すでに欠損が生じ判読し難くなっている。

D E

I LOVE LICH

The body of Theobald Andrew Purcell, Late Surgeon Major in the Britanic Majesty's Service and by permission of his sovereign for two years principal medical officer to the Department of Public works of the Japanese Govern-

ment who departed this life 20th August 1877 aged 36 years
 Strong son of god immortal love, How we that have not
 seen thou face, Believing where we cannot prove, Thou
 it not leave us in the dust, Thou marrest man he knows
 not why, he thinks he was not made to die.

And thou hast made him. Thou are just.

(6) ノーセル夫人メアリー・オウグスタは彼より五年前の一
 八七二年五月二十八日二十二歳で死亡している。子供はな
 かったらしい。

墓碑は前記の場所に夫妻並んで建立された。墓碑銘には
 次のように刻まれている。

- Scared to the memory of Mary Augusta, The beloved
 wife of T.A. Purcell Staff Assistant Surgeon, who departed
 this live the 28 th May 1872, aged 22 years
- (7) 医学的業績については現在のところ論文報告は発見する
 ことができないが、今後の調査が必要である。
- (8) 医学以外のものとしては現在のところ次の三著作が知ら
 れている。
- ① Our neighbourhood, sketches in the suburbs of Yedo,

1874, Yokohama

② A suburb of Yedo, 1889, Chapman and Hall Limited,
 London

③ A literary lady of old Japan; Transactions Asiatic Society
 of Japan Vol. 16, p. 215-224, 1888

①は Japan Weekly Mail に發表してゐたものをまとめた
 もので全文二二四頁。その六五頁から七一頁にかけて日
 本の医師について記述している。図版は二三ある。

②は二二二頁で前著とほぼ同じ内容であるが、没後に出版
 されたもので、若干増補されている。その内容は次のよ
 うである。

Contents		page
(1)	A suburb of Yedo	1
(2)	The sake shop	18
(3)	The stonemason	30
(4)	The barber	37
(5)	The blind boy	58
(6)	The barber's Tale	66
(7)	The tapster's story	75

(8) The Kamikudsuhiroi, or picker-up of paper-scrap	81
(9) Ujigami on matsuri	90
(10) Nagare Kanjo	102
(11) The sparrow catcher	107
(12) The doctor	112
(13) The fortune-teller	124
(14) The sory-teller	144
(15) By the river	153
(16) Kichibei, the cakeman	156
(17) A flute-player	161
(18) Concerning ants	167
(19) The bells	173
(20) The old gate	183
(21) The graveyard	191
(22) Art in the streets	200
(23) Desolation	204

⑧は十四・五年前にバーセルが著作したものをアストン
(W. G. Aston 一八四一～一九九一)が加筆訂正し、日本ア

ジア協会の例会で発表したもので、平安朝時代の女流作家
について高い見識を持っていたことが知られる日本文学研
究の著作である。

①②は東洋文庫・国会図書館上野分館及び国際文化会館
に所蔵されている。なかでも特に英国人お雇い医師の目で見
た明治初期の日本人医師についての記述に焦点をあて、そ
の概要を報告し、従来のもつた記載について二、三訂正を
行なった。

(原立がんセンター新鶴病院)